

眼鏡技術者としての誇りを胸に

株式会社賞月堂は明治二六年に創業して以来、個人のライフスタイルに合わせた眼鏡を提供し続けています。今回は四代目の木方伸一郎さんに、眼鏡技術者としての想いと、これからの展望をお伺いしました。

継往開来

—継承・発展 未来を切り開く—

最先端の技術を求めて

伸一郎さんは現在六九歳。大学を卒業した後、眼鏡技術を学ぶため、当時眼鏡技術に関して先進国だったイギリスへ六年間の留学をしました。イギリスでは眼鏡を取り扱う技術者は「オプトメトリスト」と呼ばれる国家資格を取得するために大学に通います。伸一郎さんはまず二年間、専門用語を含めた英語を身につけるために語学学校へ通い、その後大学で「オプトメトリスト」の資格を取得しました。オプトメトリストは視力に関わりのある光学をはじめ生理学、解剖学、心理学など幅広い分野をもとにした学問を学ぶため「その奥深さに心ひかれました」と当時を振り返ります。帰国して家業に入ると、最先端の国で得た技術や知識を従業員だけでなく、要請があれば日本全国飛び回り、日本の眼鏡技術者の知識や地位の向上ために余すことなく伝授するなど、その労力は惜しみませんでした。

その後平成五年、自身が四十歳の時賞月堂が二〇〇周年を迎えたタイミングで四代目を継ぎました。自分より年上の従業員が沢山いる中で、どうリーダーシップをとっていか悩むこともありましたが、「専門分野に関する知識」は伸一郎さんが、「経営に関すること」は長く勤めている先輩方に、との方針を確立したことで自分の役割に専念することが出来ました。

人が溢れ向かいの店が見えないほどの賑わいでした。「映画が終わるのが夜の十時頃でした。それから店に買い物にいらっしゃるお客様も大勢いました。皆で夜遅くまで仕事をしていたのを思い出します」賑わいとともに関社の規模も大きくなり、従業員の数もいちばん多かった時代でした。

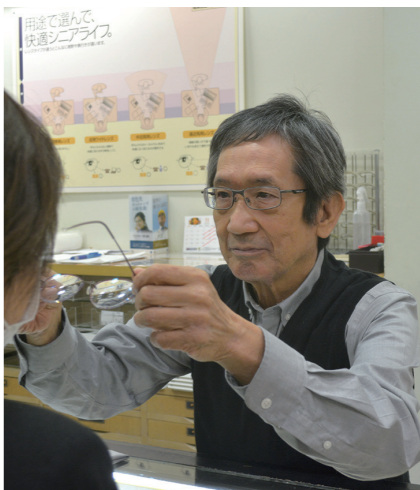
「心の対価」とは

今は、ネットで注文が出来るなど手軽に眼鏡を購入できる時代になりましたが、伸一郎さんはお客様とのコミュニケーションこそが大切だと言います。そして『心の対価』についてこう語ります。「掛け具合、見え具合、お客様が求めているものが『何か』を汲み取り、寄り添い、見極め、提供し、形にすることが眼鏡技術者の矜持です。機械では出来ない、人と人との触れ合いの中でしか解決できないことがあるのです。お客様がまさに自分の求めている眼鏡を手に入れることが出来て「満足しました」と喜んでくださったとき、それこそが、私たち眼鏡技術者が受けとることの出来る『心の対価』です」

今でこそおしゃれ感覚で眼鏡を求める人も多くなりましたが、かつて眼鏡は本当に必要な人だけが買い求めるものでした。

「昔は、技術的に眼鏡を提供するだけで良かったのですが、昨今、眼鏡を求める理由に様々な要素が入るようになって、眼鏡技術者に対して求められる要求が必然と高くなります。お客様が求めるもの、喜んでくれるものは時代によって違いますが、眼に関して長年経験を積んで培ってきた『感知する力』でどんな時でも対応できる力を持つことが大切です」

掛け具合、見え方以外にもお客様の要望は多様です。伸一郎さんは、かつてリウマチを患ったお客様に、



株式会社賞月堂
代表取締役社長 木方 伸一郎 さん

明治く昭和繁栄を見つめて

岐阜市七軒町で始まった賞月堂は、今では柳ヶ瀬の本店をはじめ岐阜県や愛知県で十一店舗を展開しています。初代の千代五郎さんについて、こんなエピソードがあると伸一郎さんは語ります。

「創業時は『ほんこ』などの版を彫ることを生業としていましたが、とても手先が器用な人で、当時広く一般に普及しはじめた『眼鏡』が注目され出すとすぐに着目し、眼鏡の調整・修理等のいわゆる『眼鏡屋』にシフトチェンジしました。また、昭和の初めには店を柳ヶ瀬に移転しました。その頃の柳ヶ瀬はまだ日本有数の繁華街として賑わう以前でした。身内の私が言うのもなんですが『先見の明』がある人だったと思います」

その後、昭和三十年代から四十年代の柳ヶ瀬は通り

眼鏡のフレームに棒のような取っ手をつけて簡単に装着、脱着しやすいように改良したことがありました。「知識があれば分析できます。もともとお客様が望む眼鏡に近づくために眼鏡技術者は生涯学習が必要な職業です」

残念ながら日本には「オプトメトリスト」の制度はありません。しかし、伸一郎さんは早くから、様々な生活様式に適應する眼鏡の提案をするためには、眼鏡技術者の知識や技能の向上が必要であり、眼鏡技術者が生き残っていくためにはお客様から必要とされなければいけないと考えていました。その思いから、長年「日本眼鏡技術者協会」の会長として「認定眼鏡士」と呼ばれていた任意の資格を国家資格にするための活動を進めてきました。その努力が実を結び、令和四年十一月に「認定眼鏡士」は「眼鏡作製技能士」と名称を変え国家資格として生まれ変わりました。

先代の清一郎さんは、常々「心からお客様のことを考えて最適な眼鏡を提案できる環境づくりが大事である」と話していました。

その言葉を受け継ぐように伸一郎さんは眼鏡技術者と眼科医は「共働」という気持ちでいると言います。

「眼科医と良好な連携を積み重ねていくことでお客様により良い眼鏡やコンタクトレンズを提供できます。先ずは眼の病気の早期発見が第一です」

そのサポートとして眼鏡技術者が存在します。眼鏡の提供だけでなく眼病の早期発見の重要さを説明し、理解してもらうことも眼鏡技術者の役割です。

「健康な人の眼は宇宙みたいに綺麗です。それを守っていくのが私たちの仕事だと思います」

そう語る伸一郎さんの瞳は誇り高く、その先の未来をしっかりと見つめていました。

株式会社賞月堂

所在地 岐阜市柳ヶ瀬通2-23
TEL 058-265-0151

*「オプトメトリスト」は業種や手帳に類するに類するの視力や矯正用コンタクトを行う仕事です。アメリカやオーストラリアなど一部の国では国家資格となっており、高度な専門職として認知されています。